



## 適切なアクセスポイントの選択

- [モデル \(1 ページ\)](#)
- [製品番号と説明 \(2 ページ\)](#)
- [サポートされる、AP 2800 および AP 3800 と互換性があるコードバージョン \(3 ページ\)](#)
- [AP 2800 と AP 3800 アクセスポイントの違い \(3 ページ\)](#)
- [機能の違い \(5 ページ\)](#)
- [AP 2800 および AP 3800 のポート \(6 ページ\)](#)
- [モジュール性およびスマート アンテナ コネクタ ポート \(7 ページ\)](#)

## モデル

Cisco 2800 および 3800 シリーズ アクセスポイントはミッションクリティカルのサポートとそれぞれのクラス用途で最高のもを必要としているお客様を対象としています。AP 2800/3800 は、革新的なアンテナテクノロジーである ClientLink 4.0 を実装したものです。ClientLink 4.0 は、Multiple Input Multiple Output (MIMO) 構成で 4x4 と呼ばれる、4 つの送信無線と 4 つの受信無線から構成され、3 つの空間ストリーム (3SS) をサポートします (**4x4:3**)。このタイプのアンテナシステムを、最大 256 QAM と最大 160 MHz チャンネルボンディングをサポートする追加の変調符号化方式 (MCS) レートと一緒に使用すると、最大 5 Gbps のレートをサポートできます。

ClientLink 4.0 は追加のアンテナ (N+1) と共にこれらの機能を使用し、すべての 802.11a/g/n/ac のほか、現在では 3 つの空間ストリームをサポートするものを含む ac Wave-2 クライアントのビームフォーミングを可能にします。

図 1: アクセスポイントポートフォリオの配置

## Cisco Aironet Portfolio Positioned to Capture the 802.11ac Wave 2 Transition

Enterprise Class	Mission Critical	Best in Class
<div style="text-align: center;">  <p><b>1810 Wall Plate</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2x2:2SS 80 MHz; 867 Mbps</li> <li>• Tx Beam Forming</li> <li>• 1 GE Port uplink</li> <li>• 3 GE Local Ports, including 1 PoE out</li> <li>• Local ports 802.1x ready</li> <li>• Integrated BLE Gateway*</li> </ul> <p><b>1810 Teleworker</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2x2:2SS 80 MHz; 867 Mbps</li> <li>• 3 GE Local Ports downlink, including 1 PoE out</li> <li>• One or Two Local Ports can be tunneled back to corporate</li> </ul> <p style="font-size: small;">FCS June 07 16</p> </div>	<div style="text-align: center;">  <p><b>1830</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 3x3:2SS 80MHz; 867Mbps</li> <li>• Spectrum Analysis*</li> <li>• Internal antenna</li> <li>• Tx Beam Forming</li> <li>• 1 GE Port</li> <li>• USB 2.0</li> <li>• Centralized, FlexConnect and Mobility Express</li> </ul> <p><b>1850</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4x4:3SS 80MHz; 1.7 Gbps</li> <li>• Spectrum Analysis*</li> <li>• Internal or External antenna</li> <li>• Tx Beam Forming</li> <li>• 2 GE Ports</li> <li>• USB 2.0</li> <li>• Centralized, FlexConnect and Mobility Express</li> </ul> <p style="font-size: small;">Shipping</p> </div>	<div style="text-align: center;">  <p><b>2800</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4x4:3SS 160 MHz; 5 Gbps</li> <li>• 2.4, 5GHz or Dual 5GHz</li> <li>• 2 GE Ports</li> <li>• Internal or External antenna</li> <li>• Smart Antenna Connector</li> <li>• Enhanced Location* (External Antenna)</li> <li>• CleanAir 160MHz</li> <li>• ClientLink 4.0</li> <li>• USB 2.0</li> <li>• Centralized, FlexConnect and Mobility Express*</li> </ul> <p><b>3800</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4x4:3SS 160 MHz; 5 Gbps</li> <li>• 2.4, 5GHz or Dual 5GHz</li> <li>• 1 GE + 1 mDigi (5G)</li> <li>• Internal or External antenna</li> <li>• Smart Antenna Connector</li> <li>• Enhanced Location* (External Antenna)</li> <li>• CleanAir 160 MHz</li> <li>• ClientLink 4.0</li> <li>• StadiumVision</li> <li>• USB 2.0</li> <li>• Modularity</li> <li>• Centralized, FlexConnect and Mobility Express*</li> </ul> <p style="font-size: small;">FCS May 07 16</p> </div>

アクセスポイントは3種類のモデルが使用可能です。

- キャプチャアンテナ（ハウジングの構成部分となっていて取り外しできない）を持つ内部アンテナのバージョンには「i」というラベルが付いています。「i」シリーズは、オフィスの美的景観を第一に配慮する企業向けの屋内設置用として設計されています。
- 「e」というラベルが付いた外部アンテナのバージョンはより堅牢であり、外部アンテナおよび/または拡張動作温度の必要性がある病院、工場、倉庫などの場所での産業用に設計されています。「e」バージョンは、最も要求の厳しい環境での用途向けのNEMAラック内への取り付けもサポートします。
- プロフェッショナルな導入環境向けのアクセスポイントは、「p」シリーズというラベルが付けられ、屋外の用途で使用できます。

## 製品番号と説明

SKU	説明
AIR-AP3802I-x-K9	単一ユニット。内部アンテナモデル
AIR-AP3802I-xK910	10パック。内部アンテナモデル
AIR-AP3802E-x-K9	単一ユニット。外部アンテナモデル
AIR-AP3802E-xK910	10パック。外部アンテナモデル
AIR-AP3802I-x-K9C	単一ユニット。内部アンテナモデル。構成可能

SKU	説明
AIR-AP3802I-xK910C	10 パック。内部アンテナ モデル。構成可能
AIR-AP3802E-x-K9C	単一ユニット。外部アンテナ モデル。構成可能
AIR-AP3802E-xK910C	10 パック。外部アンテナ モデル。構成可能

## サポートされる、AP 2800 および AP 3800 と互換性があるコードバージョン

AP 2800 および 3800 をサポートする最小バージョンは次のとおりです。

- ワイヤレス LAN コントローラ (WLC) AirOS リリース 8.2MR1
- Polaris リリース 16.3
- Prime リリース 3.1MR1
- MSE または CMX 10.2.2
- ISE 2.0

## AP 2800 と AP 3800 アクセスポイントの違い

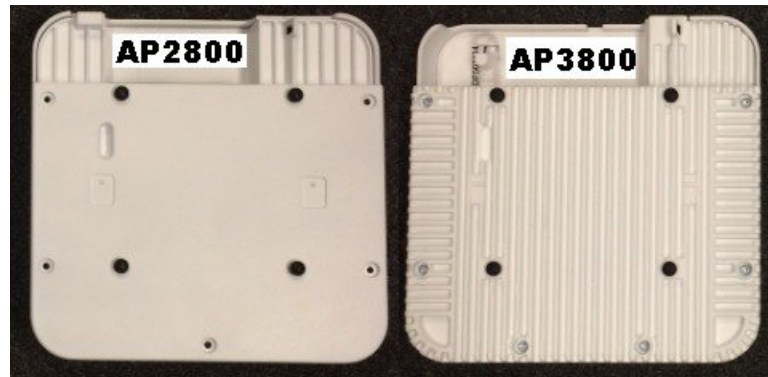
AP 2800 と AP 3800 の機械的外見はほとんど同じです。

図 2: AP 2800 および AP 3800 (I および E) バージョン



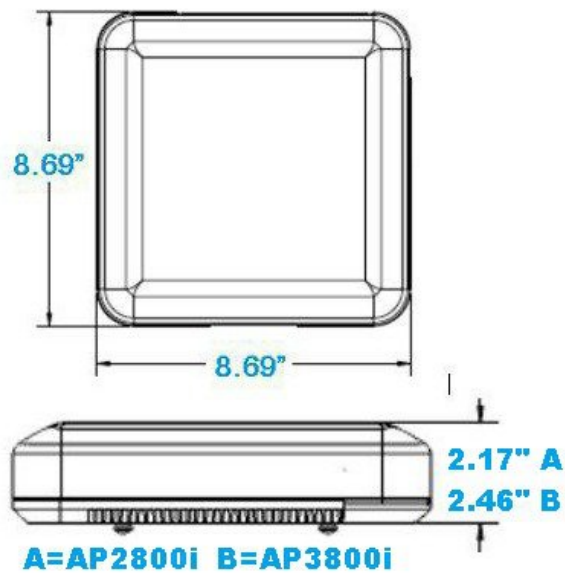
AP 3800 は「P」バージョンでも使用可能です。外部アンテナ「E」バージョンは最大 6 dBi のアンテナ ゲインを許可し、「P」バージョンは最大 13 dBi を許可します。

図 3: AP 2800/3800



2800 と 3800 では重みと厚みにわずかな違いがあります。AP 3800 は mGig (NBASE-T) のサポートとオプションモジュールサポートがあるため、やや堅牢です。左側の AP 2800 は滑らで、放熱フィンがありません。

図 4: AP 2800/3800 の寸法



モデルにより厚みはわずかに異なります。

図 5: AP 2800 および AP 3800 の寸法

Product ID	Length	Width	Height
AIR-AP3802I-x-K9	8.66" - 22cm	8.68" - 22cm	2.46" - 6.25cm
AIR-AP3802E-x-K9	8.67" - 22cm	8.68" - 22cm	2.62" - 6.7cm
AIR-AP3802P-x-K9	8.67" - 22cm	8.68" - 22cm	2.62" - 6.7cm
AIR-AP2802I-x-K9	8.66" - 22cm	8.68" - 22cm	2.17" - 5.5cm
AIR-AP2802E-x-K9	8.66" - 22cm	8.77" - 22cm	2.50" - 6.4cm



(注) 重量はモデル間でわずかに異なります。AP 3800 「E」 および 「P」 バージョンの両方と 2800e は 2.1 kg です。AP 3800i は 2.0 kg です。AP 2800i は 1.6 kg です。

両製品ともに 2700/3700 シリーズ アクセス ポイントと同じブラケット、AIR-AP-BRACKET1 および AIR-AP-BRACKET-2 を使用します。

## 機能の違い

基本的な機能の比較は次のとおりです。

図 6: 2800 と 3800 シリーズの機能比較

	Cisco Aironet 2800	Cisco Aironet 3800
<b>MAX DATA RATE</b>	<b>5Gbps.</b>	<b>5Gbps.</b>
<b>ANTENNAS: SPATIAL STREAMS.</b>	<b>4X4:3SS - 160MHz.</b>	<b>4X4:3SS - 160MHz.</b>
<b>GIGABIT - MULTIGIGABIT PORTS</b>	<b>2x1Gig</b>	<b>1Gig &amp; 1mGig (1Gig, 2.5Gig, 5Gig)</b>
<b>USB 2.0 PORT</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
<b>Spectrum Analysis</b>	●	●
<b>TX Beam Forming</b>	●	●
<b>CleanAir / ClientLink</b>	●	●
<b>Dual 5GHz Radios</b>	●	●
<b>Optimized Roaming</b>	●	●
<b>Flexible Radio Assignment "TRA"</b>	●	●
<b>Smart Antenna Connector "E&amp;P" Series</b>	●	●
<b>Slide Mount Modularity</b>	●	●

## AP 2800 および AP 3800 のポート

AP 2800 は AP 3800 に似ていますが、ローカル電源入力および mGig PoE ポートがありません。また、USB ポートは横向きに付いています。

図 7: 2800 シリーズのポート

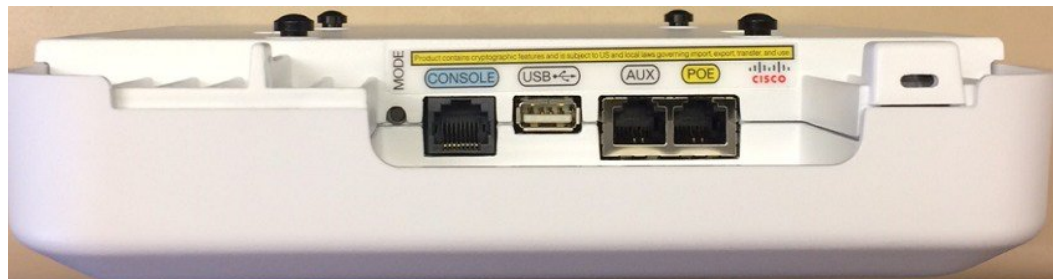
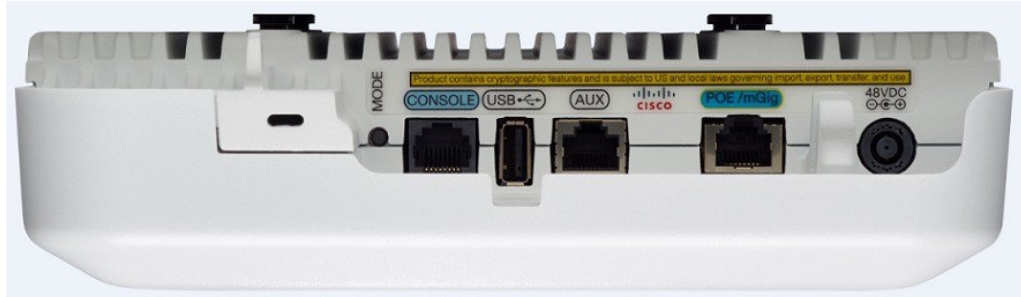


図 8: 3800 シリーズのポート



AP 3800 は右側にローカル電源のジャックがあります。これは新式のコネクタで、AP 2700 および AP 3700 シリーズで使用されていた古い AIR-PWR-B 電源と互換性がありません。このコネクタの詳細については、[電源セクション](#)を参照してください。

また、AP 3800 には mGig ポートのほか、外部モジュール用のポートもあります。

図 9: 3800 シリーズの外部モジュールポート



## モジュール性およびスマート アンテナ コネクタ ポート

AP 3800 には以前の AP 3600 および AP 3700 シリーズの元のモジュール設計と少し異なるモジュール性サポートがあります。このモジュール設計はアクセスポイントの側面への設置を可能にします。このため、より大きなアンテナ列が可能になり、アクセスポイントの物理的なサイズに制限されることがなくなるので、シスコおよび可能性のあるサードパーティのモジュールの導入が制約されることがありません。また、セルラーおよびそのほかの無線共存のために、フィルタリングが AP 3800 にインストールされています。

「E」および「P」シリーズの外部アンテナ コネクタは以前のアクセスポイントのアンテナ コネクタと同じです。アクセスポイントがデュアルバンド (2.4 および 5 GHz) 動作 (デフォルト)



トのモード) で使用される際の動作に違いはありません。RF カバレッジとセルのサイズは以前の AP2700 および 3700 シリーズと同様なので、新しくサイト調査を行う必要はありません。

以前の外部アンテナバージョンとは異なり、新しい 2800 および 3800 シリーズ アクセスポイントは、デュアル 5-GHz 動作の機能をサポートします。このモードでは、外部アンテナモデルでスマートアンテナコネクタを使用する必要があります。なぜなら、追加の 5-GHz 無線は、プライマリ 5-GHz 無線によって使用されるアクセスポイントで同じ上部アンテナを使用できないからです。

スマートアンテナコネクタが設置されると、XOR 無線 (ソフトウェアで無線 0 と定義される無線) の RF はスマートアンテナコネクタに切り替わります。

図 10: AP 2800e および 3800e の外部コネクタポート

